©錦城高校新聞委員会編集室 2017
錦城高校新聞 ２０１７年（平成２９年）３月２４日（金曜日）

自ら進め、待ち受ける苦難も成長へ

第52回卒業式挙行

まだ寒さが残る3月の好天に恵まれた中、吹奏楽部の軽快なマーチと在校生や保護者の温かな拍手に迎えられ、第52回卒業式が行われた。総勢４９３名の卒業生が、各々未来への期待を胸に晴れて錦城高校を卒業した。

保護者や在校生の温かい拍手に送られ、未来への希望を胸に退場する52回生

3年間の想いを胸に

挙行の挨拶の後、卒業生にとって最後となる校歌が体育館に響きわたり、52回生の卒業式が行われた。

卒業証書授与では担任の先生が卒業生の名前を一人ひとり読み上げ、各クラスの代表生徒が証書を受けとった。続いて賞状授与が行われ、皆勤賞68名の名前が呼ばれた。他にも東京都知事賞が村上綾菜さん（３Ｉ）に、日本私立協会賞が越智駿くん（３Ｂ）に、その他私立学校教育振興会奨励賞、高体連表彰状、高文連表彰状、クラブ・委員会努力賞がそれぞれ受賞者に授与された。

学年主任の話では、佐藤淳先生が「人は経験を積むと苦しい道を避けるようになる。ですが、皆さんには是非、今後苦しい道を選択できる人になってほしい」と卒業生に語った。「これから先、波風が立たないわけではない。逆境に負けることなく、ピンチを自分が成長するチャンスと捉えてほしい」と熱くメッセージを送った。

卒業生代表生徒答辞として、牧野魁人くん（３Ａ）は「錦城では泣いたり笑ったり、競ったり悔やんだりしました。錦城で学んだことを使い世界に羽ばたきたいです」と決意を堂々と述べた。同級生や先生、保護者など自分を支えてくれた人たちに対し「ありがとう」と３年間の感謝の気持ちを伝えた。

式の最後52回生は、３年間の思いを胸に『旅立ちの日に』を歌い上げた。合唱が終わると会場中が感動に包み込まれ、たくさんの拍手が卒業生に送られた。

最後の卒業生退場では、多くのクラスが全員で大きな声で先生に感謝の一言を伝えるなど、クラスの絆を感じさせる感動的なシーンで式が締めくくられた。

錦城生活を振り返って

卒業式を終えた52回生にインタビューしてみた。この３年間で、阪元優香さん（３Ｉ）は自分が変わったという。先代の校長先生である梶原先生の「出会いだけが人を変える」という言葉を３年生になって実感し、自分自身も「すごく大切な人に出会えました」と嬉しそうに振り返った。最後に在校生に向けて「見据えることは大切だけど、見据えすぎると大変。目の前にあるものを大切にしてほしいです」と語った。

３Ｃの教室の前を通ると、生徒たちが担任の先生にサプライズをしているのを見かけた。サプライズ後、古川美月さん（３Ｃ）に話を聞いてみると、『３月９日』を歌い、手作りのアルバムを渡したという。ＨＲ委員の提案で、１週間程前から個人で練習していたそうだ。古川さんは「彰先生はクラスみんなのお父さんみたいな存在でした」と恩師を想いながら話していた。

卒業証書を手に笑顔の卒業生

担任の田中先生にサプライズの感想を聞くと「嬉しかったに決まっています」と微笑みながら振り返る。生徒達の顔を見ていると泣けてきてしまったそうだ。

卒業式で卒業記念品目録を贈呈した三井桃子さん（３Ｊ）は「目録」を書道で手書きした。毎年この役目を受けもつ人が書くわけではないが、係に決まった後に担任の先生から「せっかくなら自分で書くか？」と提案があり「これが錦城のためにできる最後のこと。小さな恩返しだと思いながら一字一字丁寧に心をこめて書きました」と微笑んだ。

最後に三井さんは「お世話になった錦城、そして先生方に恩返しができるように、大学に行っても、社会人になっても、頑張っていきます」と強い意思を瞳にたたえながら語った。

錦城への想いを込めて「目録」を一字一字丁寧に書いた三井さん

クラスメートと記念撮影をする

フットサル部、一部リーグ見事昇格

全部員のさらなる前進に期待

フットサル部リーグ優勝！

フットサル部が２月19日（日）東京都ユースフットサルＵ18の２部リーグで優勝し、２年ぶりの１部リーグへの昇格を決めた。

今年は強いクラブチームがおり、昇格できるか不安だったとフットサル部部長の成田智一くん（２Ｉ）は話す。試合は０対０で引き分け、２部リーグでは優勝した。この試合は守りのみで攻めることができなかったため、攻めのバリエーションを増やすことが今後の目標だそう。最後に後輩へ「１部リーグは技術面でも相手が強いから張り合いがあると思うので、頑張ってほしいです」とエールを送った。

都選抜緊張の中で関東優勝

フットサル部の白濵恭太朗くん（２Ｅ）が東京都選抜に選ばれ、２月25日（土）に山梨県で開かれた関東大会に出場した。

実力差に衝撃を受けたと白濵くん

東京都選抜は白濵くん以外フットサル経験が長く、全員がクラブチーム出身者で、実力差を感じたという。大会では東京都選抜が見事優勝したそうだ。大会を終えて「周りが上手い人ばかりだったので、今までにない緊張感だったけど、試合を重ねていくうちに楽しくなったので良かったと思います」と振り返った。

卒業した３年生へ「先輩たちのメンバーに入っていた時間が今に活きていると思っています」と感謝の気持ちを話した。（菫・豆）

大盛況だった三送会＆52回生記念品

盛りだくさんの三送会

２月28日（火）、第一体育館で三送会が大歓声と共に幕を開けた。

軽音楽部の演奏や１年生トリオによる漫才、ヲタ芸など、バラエティー豊富なパフォーマンスで盛り上がった。演目の間には司会者がトランプマジックやお笑い芸人のものまねを披露し会場から笑いが絶えることはなかった。全ての演目の後には、映画研究部が作成したビデオレターが上映され、『君の名は。』などのパロディーメッセージが送られた。異動した先生が登場した時には、３年生が歓声を上げた。ビデオレターの後、３年生の先生がステージで沖縄修学旅行のときに踊ったゆいまーるや、「恋ダンス」を披露した。

司会者の合図と共にサイリウムを振って盛り上がりを見せる３年生

ダンスの後、学年主任の佐藤淳先生が『世界にひとつだけの花』になぞらえて「ナンバー１を目指す人生があってもいいと思うし、オンリーワンを目指す人生があってもいいと思います。私たち52回生の教員団は４９３人全員がそれぞれのタイミングで花を咲かせてくれることだけを祈って感謝を込めて花束を贈った。

今年の記念品はピアノ

52回生から贈られた記念品はアップライトピアノだ。記念品はＰＴＡと学校での話し合いで決まる。学年主任の佐藤淳先生は「３年生を送るために生徒会や多くの在校生、先生方が動いてくれています。３年生にはそんな裏で準備をする人たちの気持ちを感じ取って楽しんでほしい」と話してくれた。（豆・湊）

体育館に置かれた真新しい卒業記念品のピアノ

ダンス部 心を熱くするウィンターステージ

２月25日（土）、ダンス部のウィンターステージが多目的ホールで行われた。多くの保護者や友人が詰めかけ、満員のホールには立ち見客が出るほどであった。

和楽器の軽快な音楽に乗り始まったオープニングでは、２年生による「くの一」をイメージした和風のガールズヒップホップが披露された。総勢20人の迫力あるダンスに、観客は一気に盛り上がる。その後のグループ発表では、１年生からヒップホップ、ガールズ、ロックが順に行われ、１年生とは思えないほどの堂々とした踊りで観客を沸かせた。

満員のホールでキレのあるダンスを披露するダンス部

続いて踊ったKBZは１年生が多いながらもブレイクの大技を次々と決め、観客からはその度に拍手が起きた。１年生大会ではマリオの音楽に合わせ、ゲーム内のキャラクターをイメージしたという赤と緑の衣装をまとってヒップホップを披露。

２年生の部はジャズ、ロック、ガールズヒップホップ、Ｒ＆Ｂの順でのグループ発表が行われたが、メンバー全員の息が合った振りや、曲によって変化する表情などで会場の目を釘付けにさせた。パステルカラーのフレアワンピースやモノクロを基調にしたものなど、各グループ曲に合わせて工夫された衣装も観客の目を楽しませていた。最後に行われた定番のスローでも、赤のワンピースでしっとりと踊り、それまでとは一転し女性らしい美しさで魅了した。

ステージの最後は、緩いパーカーを着た部員が全員でエンディングをエネルギッシュに踊り、会場を大いに沸かせて占めた。（白）

むらさき草

錦城の図書室に、なんともいえない表情のくまが目をひく絵本があった。題名は『どこいったん』。帽子をなくしたくまが、いろんな動物に出会いながら帽子を見つけるという話だ▼その隣には『I WANT MY HAT BACK』という絵本があった。『どこいったん』の英語の原本だ▼２つを読み比べると、英語と日本語の表現の違いが面白い。原文では、くまは出会った動物に「thank you anyway」と別れていくが、翻訳本ではきっぱりに「おおきに」、もぐらに「もうええわ」とその場の雰囲気で言葉が変わる▼作者のジョン・クラッセンさんの文章はシンプルだが、率直な言い回しが面白く読み手の想像が膨らむ。翻訳者の長谷川義史さんは、ユーモアある関西弁を使い、おとぼけ感がよく伝わる▼カナダ人の落語家、桂三輝（サンシャイン）さんをご存知だろうか。初めて落語を聴いたとき「日本人でなくても笑える。英語にしたら受ける」と思い、落語家になったそうだ▼彼の落語の一つにこんな話がある。三輝さんは石鹸を買いに行くのだが、上手く「せっけん」と発音できず店員に伝わらない。最終的に何とか見つけて、これはなんと言うんだ、完璧な日本語で教えてくれと聞くと、これは『ハンドソープ』だ、と言われ、私に英語を教えてくれてありがとう、と皮肉を言って話は終わる▼この落語はすべて英語だが、最後の「ハンドソープ」をわざと日本語っぽくした言い方や彼の驚いた表情、しぐさでお客に想像させ、英語が分からなくても笑うことができる▼絵本の読み比べで感じたように、言葉の違いはそれぞれの表現があって面白い。一方で、違う言葉でも共通の笑いや涙があり通じ合うこともある。この春それぞれが新しいステージへ進んでいく。自分が触れたことのない言葉や文化を知り、チャレンジすることで面白い発見があるはずだ。（藤）

錦城高校新聞
題字 井口 文章
再刊 第２２２号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2017
みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：第52回卒業式 卒業おめでとうございます
フットサル部、一部昇格＆東京都選抜出場
二面：東京・埼玉の50校に聞く他校の携帯事情
進路講演会 卒業生に聞く受験のポイント